

化学人材交流フォーラム 2021 総評

皆さん、大変お疲れ様でした。

化学人材育成プログラムの学生へのご支援に対し、この場を借りて御礼申し上げます。また、本日はこのような博士学生と企業で活躍する若手研究者からなるフォーラムを企画いただきありがとうございました。

私はこのフォーラムには初めて参加します。実は一昨年までは化学メーカーに勤務しており、長年にわたって研究開発に従事していました。従いまして、本日のフォーラムについて、企業の立場からと大学教員の立場からの双方から思ったことをコメントさせていただきます。

まず、企業の立場ですが、化学企業の研究開発は日増しに高度化しています。様々な制約の中で社会課題に応え、なおかつ競合と差異化した製品を生み出していくかなければなりません。そういう厳しい状況の中で、博士人材は必須の存在です。本日の博士学生の皆さんのお発表は、それぞれしっかりとモチベーションを持って研究に取り組んでおり、非常に心強く思いました。テーマについても新しいイノベーションを期待させる内容で今後が楽しみです。世の中にはSDGsなど問題が山積していますが、企業の研究開発は、その中からどんな課題を切り出してくるかがテーマの生死を握ってるといつても過言ではないと思います。したがって、課題設定力があって自立した研究者というのは、まさに企業が望むところであり、協議会にはその育成を引き続きご支援いただきたいと思います。

一方で、大学教員としての立場からですが、私は今年初めて就職担当を経験しました。この半年で驚いたことは、修士学生の多くが、修士卒業のタイミングがキャリアとして民間に行くかアカデミアで研究に進むかの分岐点にあると考えていたということです。これは企業にいた人間からすると、全く予期しない答えでした。というのも、私がいた企業の研究所は博士出身者がたくさん活躍しており、研究を切り拓いていく博士はまさに企業が求める人材でした。その点を修士学生が誤解していることは由々しき問題であると思っています。大学教員としては学生のマインドセットを変えて、目指すべき姿に向かっていけるようしっかりとした教育しなければならないと思った次第です。

本日参加された学生の皆さんには、是非後輩の皆さんにそのような姿勢を伝えていただきたいと思います。私もこのフォーラムが、博士人材に対する化学業界のニーズを把握する上で非常によい場であると感じます。来年は修士1年生にこのフォーラムを聞かせたいと思います。

最後に、このような取り組みを10年にわたって続けてこられた化学人材育成プログラム協議会に深く感謝いたします。引き続きご支援のほどよろしくお願ひいたします。



竹内 教授
東京大学大学院工学系研究科
化学システム工学専攻